

当月のS&P MLP 指数の動き

3月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+0.05%と僅かながら上昇しました。

月初は、米国の関税政策や貿易摩擦の激化が世界経済や原油需要の停滞を招く可能性が意識され、米国株式や原油価格が下落するなか、MLPも下落しました。ただし、その後は、地政学リスクの高まりなどを受けて原油価格が上昇したことなどもあり、MLPは上昇基調となりました。

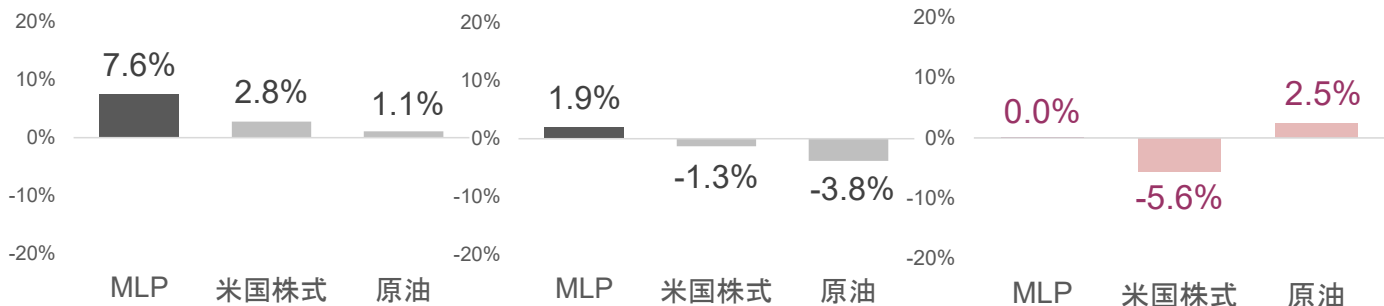
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

2025年1月

2025年2月

2025年3月



MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率			
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比	
	2025/3/31	2025/2/28	2024/12/31	2024/12/31				
S&P MLP 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	10,274.07	10,268.96	9,363.36	9,363.36	0.0%	9.7%	9.7%	
プライスリターン	1,896.20	1,897.56	1,759.87	1,759.87	-0.1%	7.7%	7.7%	
S&P 500種 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	12,360.21	13,098.22	12,911.82	12,911.82	-5.6%	-4.3%	-4.3%	
プライスリターン	5,611.85	5,954.50	5,881.63	5,881.63	-5.8%	-4.6%	-4.6%	
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	1,654.33	1,592.97	1,501.02	1,501.02	3.9%	10.2%	10.2%	
プライスリターン	715.75	689.88	654.85	654.85	3.7%	9.3%	9.3%	
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	1,845.98	1,914.65	1,828.72	1,828.72	-3.6%	0.9%	0.9%	
プライスリターン	352.96	368.75	353.27	353.27	-4.3%	-0.1%	-0.1%	
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))								
トータルリターン	1,736.99	1,755.84	1,720.74	1,720.74	-1.1%	0.9%	0.9%	
プライスリターン	68.78	69.91	69.26	69.26	-1.6%	-0.7%	-0.7%	
米国10年国債利回り	4.20%	4.20%	4.57%	4.57%	0.00	-0.37	-0.37	
原油 (WTI) 米ドル／1バレル当たり	71.48	69.76	71.72	71.72	2.5%	-0.3%	-0.3%	
天然ガス先物 米ドル／百万btu当たり	4.12	3.83	3.63	3.63	7.4%	13.4%	13.4%	
米ドル (対円)	149.96	150.63	157.20	157.20	-0.4%	-4.6%	-4.6%	

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 3日、トランプ米大統領は、カナダとメキシコに対する関税について、4日に発動することを再確認したほか、4月2日に相互関税を発動すると改めて述べ、さらに、4月2日以降に海外産農作物に関税を課すとした。2月のISM(供給管理協会)製造業景況指数が予想を下回り、景気減速懸念が広がったことなどから、米株式相場は反落した。なお、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスが、有志国による原油の自主減産を予定通り4月から段階的に縮小すると発表したことを受け、原油先物が下落した。
- 5日、米国ではホワイトハウスが、カナダとメキシコに発動した関税のうち、自動車については1か月間適用を除外すると発表した。株式相場は、貿易摩擦を巡る警戒感が後退し、反発した。原油先物は、米週間統計で原油在庫が増えたことなどもあり、売られた。
- 13日に米国で発表された2月の卸売物価指数の伸びが前月から鈍化し、予想も下回った。また、トランプ大統領は、鉄鋼・アルミニウムへの米関税措置に対する報復としてEU(欧州連合)が米国産ウィスキーへの課税を発表したことを受け、欧州産アルコール飲料に200%の関税を課す考えをSNSに投稿した。貿易摩擦などへの懸念から、米国債利回りが低下したほか、株式市場では、米主要3指数が揃って下落した。また、世界景気の減速懸念などから原油先物が反落した。
- 20日、米国は、イラン産原油を購入している中国の製油所や輸送に関わるタンカー運航会社などへの新たな制裁を発表した。地政学リスクの高まりなどを背景に、原油先物が上昇した。

今後の注目点

- 4月から、2025年1-3月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

過去3カ月の原油価格の動向

ロシア国営企業の欧州向け天然ガスの供給が停止したことなどを背景に原油先物価格は上昇し、1月15日にWTIが1バレル＝80米ドル台と約5か月ぶりの高値を付けました。その後、トランプ大統領による関税政策を受けた景気減速懸念などから原油先物価格は下落し、3月10日にはWTIが1バレル＝66.03米ドルと2024年9月以来の低水準となったものの、3月中旬以降は、地政学リスクの高まりなどを背景に上昇基調となり、WTIは70米ドル台にのせて月末を迎えました。

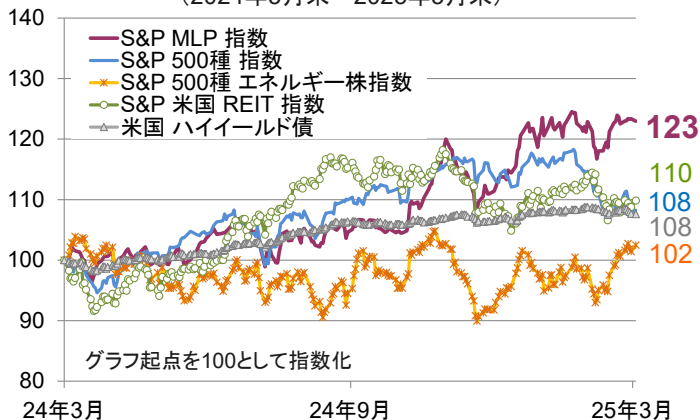


信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移（米ドルベース／トータルリターン）

(2024年3月末～2025年3月末)

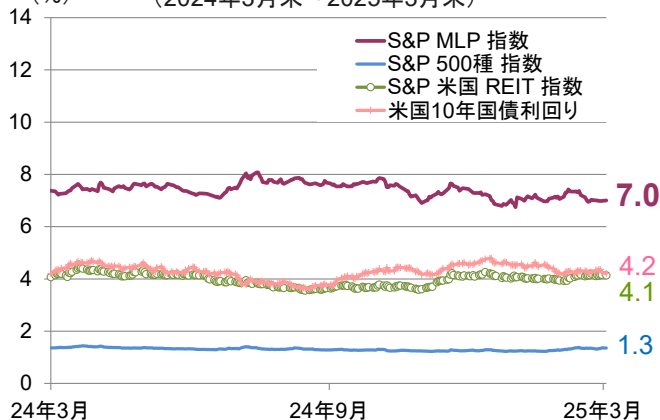


※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

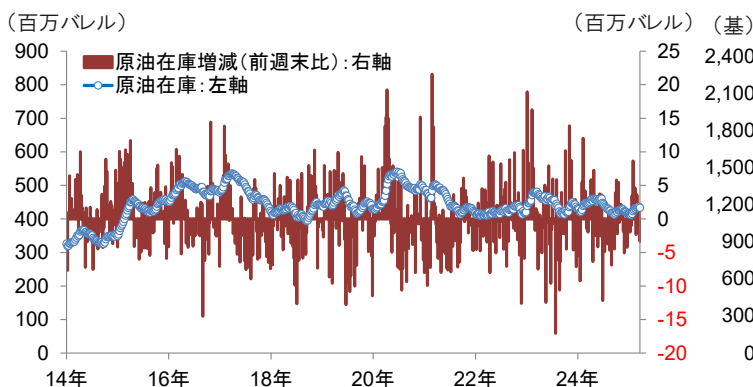
■過去1年の各資産の利回り

(2024年3月末～2025年3月末)



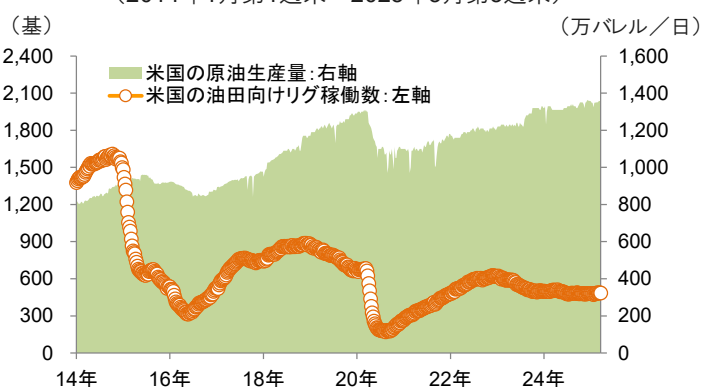
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2025年3月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2025年3月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2025年3月末)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。